

令和3年度病害虫発生予察情報 注意報第4号

令和3年7月16日
岩手県病害虫防除所

県中南部を中心に葉いもちが平年より早く発生し、拡大している圃場が確認されています。
穂いもちの発生が懸念されるため、早期発見、早期防除に努めましょう。

- 1 対象作物、病害虫：イネ、いもち病（穂いもち）
- 2 対象地域：県中南部
- 3 発生時期：早
- 4 発生量：やや多
- 5 予報の根拠

- (1) 基準圃場（北上市成田、接種）では、7月第1半旬に発病が確認され、第3半旬にかけて病斑数が増加した（図1）。
- (2) 7月上旬の巡回調査では、発生圃場率は4.1%（平年0.8%）で平年より高かった。
- (3) 直近の巡回調査で、県中南部の複数の圃場で葉いもちの発生が確認されている（7月15日現在、図2）。
- (4) 特に、葉色の濃い圃場で発病が確認され、一部では、上位葉に急性型病斑が見られたほか、周辺圃場での発病も確認されている（写真1、2）。
- (5) B L A S T A M（アメダスデータを用いた葉いもち感染予測システム）では、6月16日から全県的に感染好適条件が複数回出現しており、感染が繰り返されていると考えられる（表1）。

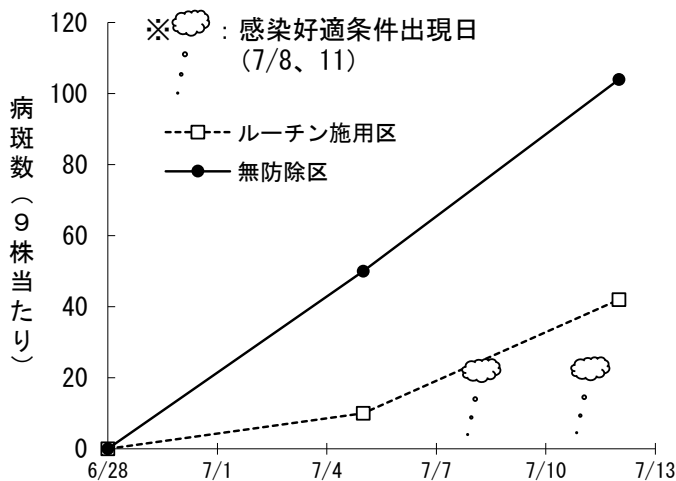


図1 基準圃場（北上市成田）における葉いもちの発生推移（接種：6/22、28、7/6）

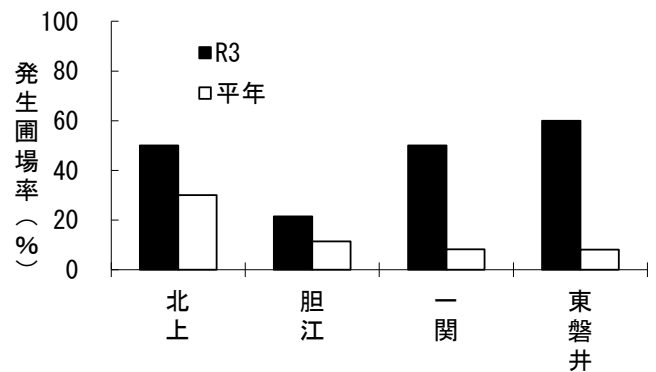


図2 葉いもち発生状況（7月15日現在）
1) 100株調査で発病葉が認められた圃場率
2) 調査地域：一関・東磐井・胆江・北上地域

6 防除対策

(1) 上位葉（止葉、次葉、第3葉）に葉いもちの発生が見られるところでは、直ちに茎葉散布を行う。

(2) 穂いもち防除

ア 予防粒剤で行う場合

- ・ 施用前に圃場をよく観察し、葉いもちの発生が確認された場合は、予防粒剤だけでは効果が劣るので、茎葉散布を実施してから粒剤を施用する。
- ・ 出穂期が平年より早い見込みであるため、防除時期が遅れないように注意する（※R3.7.14 岩手県農林水産部農業普及技術課農業革新支援担当発行「令和3年度水稻の生育状況（7月12日調査 速報）」より）。

(https://www.pref.iwate.jp/agri/_res/projects/project_agri/_page_/002/003/895/0712.pdf)

イ 茎葉散布で行う場合

- ・ 散布は「出穂直前」、「穂揃期」の2回を基本とする。

(3) 予防粒剤や茎葉散布による防除に加えて、次のような場合には、穂揃い1週間後に茎葉散布による防除を実施する。

- ・ 葉いもち（特に上位葉）の発生が多い場合。
- ・ 穂ばらみ期以降の低温や出穂期以降に降雨が連続するなど天候が不順な場合。

～農薬危害防止運動実施中(6/1～8/31)～

【利用上の注意】

- ・ 農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・ 農薬使用の際は（1）使用基準の遵守（2）飛散防止（3）防除実績の記帳 を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/boujo/index.html>

